

# Life のそばで生きていく

## Life それは命、Life それは生活、Life それは人生

高知県立大学看護学部は、1952年に高知女子大学家政学部看護学科として我が国で初めて4年制大学で看護学教育をスタートして70年、実践—教育—研究の連環の中で「看護学とは何か」を探究し、将来に拓かれた看護学の構築にチャレンジし続けています。大学院は、1998年に看護学研究科（修士課程）としてスタートし、2014年に看護学専攻博士前期課程・博士後期課程、博士課程をもつ研究科へと発展し、創設期から拡充・発展へと向かっています。

本年報は、看護学部、看護学研究科の教育活動・研究活動・社会連携活動を中心にまとめたものです。看護学部は、“看護学を探究する教育”“看護実践を大切にする教育”“学生の個性を伸ばす教育”を大切に、次代の看護専門職者の教育に力を注いでいます。

2022年度も新型コロナウイルス感染症により、教育、研究、社会連携、国際交流などの活動は影響を受けました。そのなかで感染予防対策を最大限にはかり、対面授業を中心としてWebを併用した方法を駆使して学生と教職員、地域の方々と協働して取り組みました。コロナ前の対面での活動と同じ形態で行うことは難しい面もありましたが、臨地実習も新たな方法や技術を用いて目的を達成することができました。ご協力ご支援をいただいたすべての方々に感謝申し上げます。

令和4年度より新カリキュラムがスタートしました。学修者本位の教育・授業の実現を目指して、教員は自己評価・点検して教育の質の保証に取り組んでいきます。2022年度は、文科省の「ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に採択され、遠隔実習やシミュレーション演習を行う設備と体制を整備し、学生の能動的学習を支援しました。[学習環境・学年行事に関する調査]を実施し、4学年間の交流についてのニーズへの対応や低学年からのキャリア支援にも務めました。学生は行動制限が緩和される現状の中で可能性を広げ、大学での学びや立志社中などの課外活動にも創意工夫して逞しく取り組みました。

大学院では、前期課程のインドネシアからの留学生が2年間の課程を終え、3年ぶりに高知県立県民文化ホールで開催された学位授与式において修士（看護学）の学位が授与され、大学院代表として流暢な日本語で答辞を述べられました。インドネシアをはじめ海外の協定校や修了生との学術的交流は、Webの活用も含め新たな時代の国際的・学際的な活動へとつなげていきたいと思えます。

教育研究活動については、FD活動を活発化し、特に教員が主体的に教育力を高めることを目指して努力しました。また、研究環境促進委員会を中心とした活動により、競争的外部資金に応募し資金を獲得し、他大学の教員や実践家、大学院修了生と共同研究に取り組み、その成果の発信や、学内の戦略的研究推進プロジェクト研究に取り組んでいます。

社会連携活動では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、いくつかの事業は中止となりましたが、高知医療センターとの包括的連携事業や健康長寿センターの活動に積極的に参画し、一般市民を対象とした健康文化の創造を目指す活動や、専門職者を対象とした活動を実施しました。また、高知県や高知市と協働した事業、高知県看護協会との連携事業など、専門職者の方々と共に看護の質の向上に取り組みました。

令和5年度は、伝統を継承しつつ、ポストコロナの時代を見据えてさらに充実・発展してけるよう努力していきたいと考えています。

高知県立大学看護学部  
学部長 藤田佐和